

## 高度人材採用のための日本企業による説明会「JAPAN DAY」、オンラインで初開催

### 1. 概要：

2020年10月にオンラインで開催された、インド工科大学ハイデラバード校（IIT-H）、JICAとの共催による高度人材採用のための日本企業による説明会。日本での就業機会を得たいIIT-Hの学生や卒業生と、イノベーション創出のために高度人材の獲得が課題の日本企業との間で活発な交流がなされ、両者の認識ギャップを埋める良い機会となった。

### 2. 基本情報（イベント概要）：

- イベント名：JAPAN DAY 2020
- 開催日時：2020年10月2日（金）
- 形式：インド時間午前：Zoomウェブセミナー形式  
インド時間午後：Zoomミーティング形式  
※10月2日～30日：「Event Hub」による交流サイト提供
- 主催者：JETRO、JICA、IIT-H就職課
- 規模：参加企業数20社、登録者数453人、参加者数436人
- イベント概要：インド工科大学ハイデラバード校（IIT-H）の学生及びJICA奨学生として来日中の同校卒業生を対象とした、日本企業への就業・インターンシップの機会を紹介するイベント

### 3. 詳細内容：

日本政府の支援により設立されたインド工科大学ハイデラバード校（IIT-H）は国内トップレベルの理工系大学であり、2018年より2年連続でIIT-Hキャンパスで「JAPAN DAY」を開催してきた。

しかし、今年度はインド全土でロックダウンが施行された際にほぼ全ての学生、教職員が帰郷して現在もキャンパスに戻っていないこと、日本からの企業関係者等の渡航も難しいことを鑑み、IIT-Hとも相談の上、初めてオンラインで開催した。



挨拶するIIT-HのMURTY学長

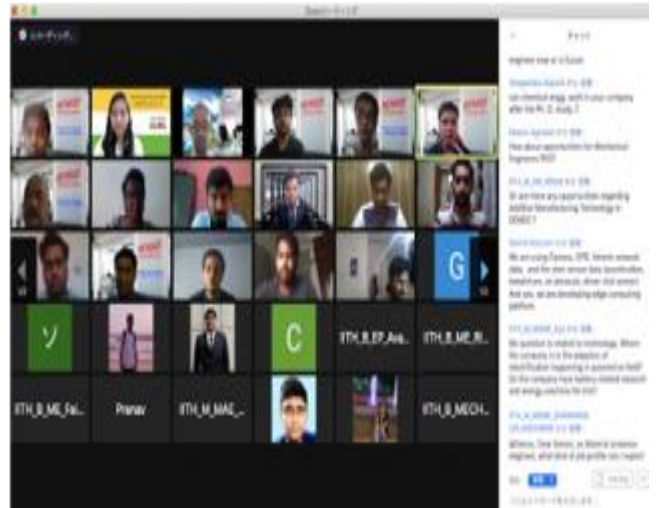
「JAPAN DAY」には、過去最多の20社の日本企業（大手5社、中堅中小4社、スタートアップ11社）、昨年の約2倍にあたる在學生、JICAの奨学金を得て日本の大学院に留学している卒業生が参加した。各日本企業は學生らに対し、自社の技術や求める人物像に関する情報発信及び學生との交流を行った。

インド時間午前の部では、事前録画した各社5分のプレゼンテーション動画を配信し、學生からはオンラインシステムZoomのQ&A機能を活用して各社への質問を受け付けた。午後の部では、各社にZoomリンクを割り振り、互いの顔が見えるミーティング形式で、午前中及びセッション中に寄せられた質問に対する回答を行った。

また、「Event Hub」を活用し、各社と學生との個別のオンラインコミュニケーション促進を図る等、12月から開始される採用面接に向けて、資料提出や學生とのコミュニケーションにおけるフォローアップを行っていく。

### ＜オンラインの強みを生かした試み＞

初のオンライン開催ということもあり、オンライン上でも企業の情報を効果的に発信するために、JAPAN DAY専用のウェブサイトを開設し、各社の概要資料やPR動画を掲載。事前プロモーション期間としてイベント2週間前に學生に対して公開した。これにより、學生は予習した上でイベント当日に臨むことができ、午後のインタラクティブセッションでも各社に対して積極的に質問が寄せられた。



熱心に耳を傾けるIIT-Hの學生

### ＜JICAとの連携強化で、参加者増に貢献＞

例年は本採用を検討している日本企業のみを参加対象としていたが、今年には本採用に加え、来年度の採用を想定したインターン採用やPR目的の企業も参加対象として加えた。さらに、JICAとの連携を強化し、これまでは在インドIIT-H在學生のみが採用対象だったが、JICA奨学金を得て日本の大学院に留学しているIIT-H卒業生も参加対象に加えたことで、プログラムとしての参加メリットを高め、参加企業数増加に繋がった。

## <幅広い業種の企業が参加>

参加企業数が増えたことで、インパクトのある形で大学側も学生に対して「JAPAN DAY」を訴求することができた。また、IT分野だけではなく、製造、ヘルステック、アグリテック、アパレルテック、ブロックチェーン等幅広い業界の企業が参加したことで、幅広い学科の学生が同イベントに対する関心喚起に繋がったのではないかと思料する。



自社の魅力をアピールする参加企業

## <JAPAN DAYを終えた日系企業の声>

参加企業からは、「オンライン開催により、想定以上に母集団形成ができた」という高評価を得た一方で、IIT-H以外の大学でもこのような採用イベントを開催してほしいという要望が寄せられた。

## <今後の課題>

新型コロナの影響により日印間の渡航が容易ではない中、内定を出した学生やインターンとして受け入れる学生とオンラインでどのように交流していくか各社とも苦心しており、ポストコロナも見据えて何らかのガイドを示す必要がありそうだ。

日本スタートアップの外国人材採用支援を強化していく上で、来年度からはインド国内における横展開や、インドに限らず、他国における大学との連携も視野に入れることが必要となりそうだ。

また、日本政府の支援により設立されたIIT-Hとは良好な関係構築ができているが、同校においては継続的にJAPAN DAYを実施していくべきと考えられるが、同校からの人材採用に加え、産学連携を強化すべく、大学研究室との共同研究、IIT-Hスタートアップとの連携等の新たな取り組みも検討したい。

加えて、オンラインでのイベント実施は、企業の現地渡航の時間・金銭的コストをおさえ参加率を高める効果がある一方で、最終的な採用面接では対面でのコミュニケーションを希望する声が多い。アフターコロナにおいては、オンライン×リアルのハイブリッドでの実施を検討したい。